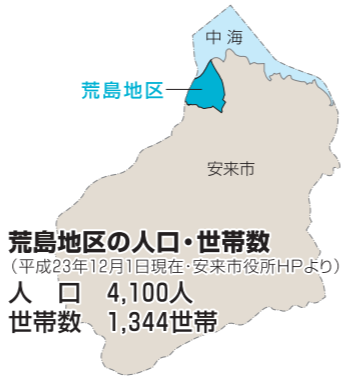


# 荒島ふるさと通信

No.19号

平成23年12月10日編集・発行  
荒島地区活性化推進協議会

最新のお知らせは、こちらへ▶ ホームページ <http://yasugi-arashima.com>



## 先進地視察旅行

# 「てっばん尾道」から帰って

地域ガイド部長 佐々木 碩俊

広報文化部と共催で当初今年3月下旬に計画していた「てっばん尾道」の研修旅行は、東日本大震災があったため年度をまたいで6月26日(日)に延期したにもかかわらず、参加者数に変わりはなく総勢39人の参加を得た。

NHK朝ドラ『てっばん』で全国的に人気を博したご当地とあって、どんなガイドをしてくださるか期待を膨らませ出発した。

現地では2人の女性ボランティアのガイドにより、千光寺公園頂上の駐車場を出发。文学のこみちくポンポン岩く千光寺く天寧寺三重の塔く市街地のコースを歩いた。眼下に広がる尾道の景色を目で楽しみながら聴くガイドは、いわゆるアンチヨコ通りでなく個性に溢れ、初めて訪れた人にもわかりやすく、時にはユーモアも織り混ぜられ



尾道観光ボランティアガイドさん(黄色のジャンパー)＝千光寺境内

ていて楽しく、面白い内容で大いに参考になった。「全国的人気スポット尾道」の呼び声にたがわぬガイドと感心した次第だ。

ひるがえって、荒島ではどうなのか？

過日「問われる地域の総合力」く感動を与える観光とはその要旨は…観光客のニーズは変化している。「歴史」、「暮らし」、「ふれあい」、「癒し」がキーワード。そして講師は「まちじゅう観光」を提唱し、

そのためには歴史、文化、食、景観を大事にするまちを目指せ、ということだった。

地域ガイド部が今後目指すのはこの4つのキーワードをベースに、「まちじゅう観光」に地域挙げて取り組むための基盤づくりをすることかなと考える。

今や町内外から年間2,000人を超える人が、古代出雲王陵の丘を中心としたこの荒島を訪れていることを、今度みんなで考えてみたい。



「てっばん」の舞台・尾道視察旅行に参加された皆さん

## 東藤島コーナー

今年で結成6年目を迎える東藤島地区まちづくり推進協議会(天谷功男会長)の活動を紹介します。

交流事業▽ピオトープ事業▽駅環境事業の3委員会を中心に、活動しています。

交流事業委員会①荒島地区との交流②年1回の健康ウォーク(約150人参加)など。ピオトープ委員会は、会員が東藤島小学校隣接地にあづまやとピオトープを手作りし、児童たちが水生生物の観察に活用しています。学校教育田「作っ田ろう」では、4年生がコシヒカリ(福井県で生まれた品種です。知っていましたか?)を栽培するなど好評です。

今春発足したばかりの駅環境事業委員会は、地区内を走るローカル線「えちぜん鉄道」の無人駅が3つもあることから、利用促進と駅周辺の花の植栽や駅舎への掲示板・文庫の設置など環境整備を図ろうと立ち上げました。

特筆すべきは、荒島との交流を通して発足した安来節同好会です。

今年5月に鷲ノ湯温泉の安来節演芸館で開かれた資格試験では、会員の中から初段に3人、一級に2人が合格されました。拍手！



機関紙「まちづくりゆめだより」最新号

## 第10回記念 古代出雲王陵の丘 健康ウォーク 健康ウオーク開く

# 5000人参加し、盛大に 10回記念古代出雲王陵の丘 健康ウオーク開く

今年で10回目を迎えた「古代出雲王陵の丘健康ウオーク」は10月16日(日)、抜けるよう

な秋空の下、王陵の丘駐車場をスタート・ゴールとする3つのコースに、約5000人が参加

して盛大に開催されました。

東藤島地区からも27人参加

開会式は午前9時から、地域間交流が続いている福井県福井市東藤島地区の東藤島地区まちづくり推進協議会(天谷功男会長)の27人を迎えて行われました。

広い駐車場いっぱいには広がったラジオ体操の様子は、まさに圧巻。記念大会を象徴する光景でした。

### ふるさとコース新設

午前9時30分、参加者たちは、仲仙寺や塩津山などの古墳を巡る荒島古墳コース(7.1km)を皮切りに、今春開通したふるさと農道(久白町く荒島小学校前く白町)を通るふるさとコース(5.3km)、白神社を往復する安全コース(3km)の順にスタート。

### 記念の紅白餅など配る

稲がハデ干しされた中、荒島の秋を満喫しながらマイペースでウォークを楽しんでおられました。

ゴールした人には、いつものおにぎり2個と豚汁に加え、10回を記念して紅白の杵(きね)つき餅2個も配られ、皆さんおいしそうに食べておられました。

その後は、梨やケーキなど荒島で生産された品物、東藤島地区からのお土産など計115点もの賞品が当たる恒例のお楽しみ抽選会です。

賞品数が増え4人に1人の確率で当たるとあって、当選番号がアナウンスされるたびに会場内から一喜一憂する声が聞こえ、大盛り上がりでした。

### ウォークにより健康で長生きを!

この古代出雲王陵の丘健康ウォーク参加をきっかけに、日々の生活にウォークを取り入れ、健康で長生きする体づくりに役立てていただければ…それが主催者の願いです。

11回大会にもぜひ参加して、交流を深めてください。また来年お会いしましょう。

今回の記念大会では、▽運転者会(コース警備、誘導)▽駐車場の提供者▽民生児童委員会(車イス後押し)▽コース沿線の各自治会▽体育協会(参加者受け付け)▽JAやすぎ荒島会(豚汁調理)▽わかたけクラブ・幼稚園と保育所の先生(豚汁とおにぎり配食)▽日曜市の出店者▽交流センターパソコンクラブ(日曜市ボス

「お礼」

ター制作)▽交流センターデジカメ同好会(記録写真撮影)▽山陰中央新報社サンちゃん号(記念号外発行)▽どじょうテレビ(放送)など、多くの皆さんのご支援とご協力により、事故もなく成功裏に終えることができました。心からお礼を申し上げます。

荒島地区活性化推進協議会  
荒島交流センター



第10回記念

古代出雲王陵の丘  
健康ウォーク  
特集



**「王陵の丘せんべい」を販売**  
荒島のお土産「王陵の丘せんべい」を、今秋から荒島交流センターが販売しています。  
王陵の丘にある古墳をかたどった焼き印が押しあり、8枚入りで300円。「おいしくて値段も手ごろ。おやつやお土産にもってこい」と評判になっています。ご希望の方は交流センター(☎281-6783)まで。



ステージ上で握手を交わす東藤島小の嶋田直美校長(右)と荒島小の吉野一郎校長

佐々木弘荒島交流センター館長と持田英俊東藤島公民館長が同席しました。その席で、双方の小学校での様子や行事、地域の歴史や催しなどを写真やメール、ビデオなどを使って情報交換し、相互理解を深めていくことからスタートしよう、ということになりました。ウォーク当日、ステージ上で吉野・嶋田両校長がガッツリ握手を交わし、交流がスタートしました。神在月の出雲での出会い。縁が広がっていきますように！

今回のウォークを機に、荒島小学校と東藤島小学校との間で交流を始めることになりました。ウォーク前日の15日、交流センターで話し合いの場が持たれ、吉野一郎荒島小学校長と嶋田直美東藤島小学校長に、

荒島小と東藤島小との間で交流がスタート



サンちゃんと一緒に写真にのびる参加者、記念号外

大会に花を添えたのが、「サンちゃん」スタッフによる記念号外の発行。記念大会を祝って、山陰中央新報社が派遣しました。  
スタート前やゴール後に、希望者がぬいぐるみのサンちゃんと一緒に記念撮影。5分後にはその写真をカラー印刷した記念号外(A3サイズ)がもらえる、という催しです。  
家族連れやなかよしグループなどが次々とサンちゃんと写真に収まり、「ウォークのいい記念になりました」と好評でした。約2時間もぬいぐるみを着て応対した荒島新聞販売所の小川世志仁さんは、「皆さんに喜んでもらえて良かったです」と、全身汗びっしょりになって話してくれました。